

特集 その2

平成24年度 秋季集落座談会

～白神米のブランド力強化と販売経路拡大を目指す～



9月7日から18日までの6日間、JAは秋季集落座談会を管内50会場で開催しました。座談会では、平成24年産米の集荷・販売方針やカントリーエレベーターの利用について協議が行われ、組合員から多くのご意見・ご要望を頂きました。このページでは、皆様から頂いたご質問とその回答を掲載いたします。

協議事項①

平成23年産米の情勢及び平成24年産米の集荷・販売方針について

Q JAの販売努力で追加精算できたことは、大変ありがたいことですが、検査手数料や事務費、運賃等、控除される部分が業者に比べてまだまだ多いと思えます。

A 検査手数料50円/俵、事務費82円/俵、米運搬代金等については、必要経費になっております。生産者手取り額の最大化のため、販売努力をしております。

Q 平成23年産米に500円が追加精算になりましたが、加工用米の追加精算は、いつ頃になるのでしょうか？

A すべての販売が終了し、販売先より入金終了後（年内中の予定）、最終精算になります。

Q 今年はくず大豆は購入できるのでしょうか？

A 例年通り購入できますが、カントリーエレベーター（以降

CEと表記）調整になりますので、事前にCEへ必要な袋数を連絡願います。

Q 網目1・85mmと1・90mmの最終精算での価格差はいくらになりますか？また、水分が多すぎる米は受け入れできないのでしょうか？

A 現段階で価格差の明示はできませんが、JA直接販売への有利販売により、メリットを還元してまいります。また、水分調整については、長期保管に耐える水分調整が必要となる事から、15%以下に調整をお願いいたします。

Q 網下米価格を早急に提示してほしい。また、JAの販売戦略上からも、網は1・90mmで統一していく必要があるのでは？

A 早急に価格を提示するように致します。また、米選機の網目1・90mmでの使用率は現在81%になっておりますが、引き続き利用を進めてまいります。

Q 出荷契約数量を超えた余り米の価格はどうなるのでしょうか？